

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校の校訓である「人格の陶冶」を実現すべく、「自立した社会人、地域に信頼され、期待される社会人」の育成をめざす。そのために夜間定時制、工科高校総合学科の柔軟な教育課程の特性と地域の教育力を活かして、以下の教育を行う。

- 1 「ものづくり」を核に据えて基本的な知識・技能の定着を図りつつ、各種資格取得に挑戦させ自己実現へと導く。
- 2 「働きながら学ぶ」ことを大切にして、基本的生活習慣、社会規範の確立及び自らの進路決定に積極的に取り組む態度を育てる。
- 3 教育活動全体を通して、教師と生徒が互いに信頼関係を築き、生徒の状況を的確に把握し、個々の能力や適性に応じた教育活動を行う。
- 4 地域と連携し、地域の教育力を最大限に活かした教育活動を通して、社会の中で生きる自信と豊かな心を養う。

2 中期的目標

1 「自立した社会人」としての資質・能力の育成

(1) 生徒の規範意識の醸成

ア 社会人としての「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力」の涵養を行い、社会人としての規範意識を醸成する。

(2) 「わかる授業」による基礎学力の育成

ア 参加型・対話型中心の授業展開やプロジェクター等 I C T 機器を活用した視覚情報の多い授業をすることで生徒の集中力を持続させる。その成果を公開授業、研究授業等で検証していく。また、G I G A スクール構想に係る生徒 1 人 1 台端末を活用した教育活動が全学年で実施されるまでに、全職員と生徒が当たり前のよう端末を駆使できるように技術や知識を蓄積していく。

※生徒向け学校教育自己診断：「授業はわかりやすく楽しい」「教え方を工夫している先生が多い」の平均が令和5年度には肯定値75%を超える。

(H30 71.5%、R 1 61.9%、R 2 77%)

イ 技能講習や資格検定等を活用し、学習意欲の向上を図る。

※各種資格および検定の延べ合格者数40名以上を維持する。(H30 38名、R 1 50名、R 2 35名)

(3) 夢と志を持つ生徒の育成

ア 問題発見・解決能力、論理的思考力、探究力、コミュニケーション能力を育て、社会人としての資質や能力を確実に身につけるよう育成する。

※令和4年度から本格実施される「総合的な探究の時間」を軌道に乗せ、生徒が主体的に課題を設定し、情報の収集や整理、分析を進める能力を高める。

イ 「働きながら学ぶ」ことを通じて学校生活や社会生活への適応を図り、進路決定につなげる。

※学校幹旋就職希望者の内定率100%維持。(H30 100%、R 1 100%、R 2 100%)

アルバイト等の就労体験率令和5年度90%台維持。(H30 88%、R 1 90%、R 2 90%)

2 生徒理解の促進と自己有用感を高める取組みの強化

(1) 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実

ア 担任、支援教育コーディネータ、教育相談、養護教諭等、連携を密にしてワンチームとして生徒の特性に応じた学習指導、生徒指導を行う。

※少人数で手厚く指導できる環境を教職員の協働により確保し、カウンセリングマインドを発揮し、個々の生徒に応じた支援を組織的に実践する。

生徒向け学校教育自己診断：「学校生活についての先生の指導は理解できる」令和5年度には肯定値80%にする。

(H30 75.7%、R 1 72.1%、R 2 72.5%)

イ 課題を抱える生徒や発達障がいを含む障がいがある生徒の一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざした効果的な指導・支援の充実を図る。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、福祉・医療関係人材及び関係機関との連携を深め、多角的な視点で生徒を支援していく。

※生徒向け学校教育自己診断：「先生は自分たちの話をよく聞いてくれる」「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる先生がいる」「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の平均が令和5年度には肯定値75%を超える。

(H30 68.3%、R 1 67.6%、R 2 73.1%)

(2) 特別活動、生徒会活動、部活動等を通じて、生徒に「自己有用感」を醸成する。

ア 生徒会行事、生徒の自主活動、ボランティア活動や地域連携事業の継続と発展をめざす。

【学校経営推進費】

令和2年度学校経営推進費として支援をいただき「学校油田プロジェクト」を展開している。ペットボトルキャップを油化し、既存のバイオディーゼル発電機（平成30年度学校経営推進費）の燃料として活用する。防災イベントや被災地で発電をすることで、ライフラインの電気が使えない状況に対する打開モデルとして発信し、活動を充実させていく。

また、令和元年度学校経営推進費「職業体験による啓発プロジェクト」事業は最終年（3年め）を迎える。事業の目標は、①「ものづくり」を通じて地域に誇りを持ち、自分にも誇りを持つ。②地場産業を通して学校外で様々な職業体験をし、基本的生活習慣とコミュニケーション能力等を身につける。③ボランティア活動に積極的に参加し、他者から感謝されることにより自己有用感を持つ。④全国で定時制高校のモデル校をめざし、定時制高校の存在意義をこれまで以上に高める。以上の目標を達成するために、生徒が地域企業から指導を乞い、様々な「啓発グッズ」を製作した。昨年度に続き、その成果物を活用して府民や生徒への啓発活動を展開していく。

【地域連携事業】

エコ・プロジェクトや地域・企業等と連携した「ゆめ・チャレ（小学生の職業体験）」等の就労体験活動のさらなる発展充実。

※各種発表大会に積極的にエントリーをして、全国大会規模の舞台で年に最低1回以上は活動の成果を披露することをめざす。そして、その活動を通して生徒の自己有用感を醸成する。

イ 部活動では、生徒のバランスのとれた心身の成長を促すよう心がける。また、ルール、礼儀、マナーを学ぶことで他者を尊重できる姿勢を育み、集団や学校への帰属意識を高める。

※部活動加入率令和5年度60%台維持、定通全国大会への出場、近畿レベル以上の各種大会やイベントでの入賞をめざす。

(H30 60%、R 1 56%、R 2 45%)

3 安全、安心で魅力ある開かれた学校づくり

(1) 生徒が安全に安心して学校生活を送ることができる環境整備

ア 「自他の命を大切にすること」や自尊感情を育てるために発達段階に応じた学習を行う。SNS上でのいじめやトラブルが多数生起していることや、ネットワーク上で有害情報が発信されている現状を踏まえ、情報の取扱いについて、とりわけ情報を発信する際の基礎的な資質能力を育成し、生徒が被害者にも加害者

府立堺工科高等学校 定時制の課程

にもならないよう、気持ちを伝え合うことの大切さを教えていく。

※生徒向け学校教育自己診断：「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」令和5年度には肯定値80%を超える。

(H30 70%、R1 61%、R2 78.5%)

イ 防災教育など自然災害を想定した実践的な防災行事を地域住民と共に行い、「自助・共助・公助」の基盤を作る。

※学校安全総合支援事業「災害ボランティア活動の推進・支援事業」に応募するなど、継続して防災活動や防災ボランティアに取り組む。

(2) 教育活動の積極的な情報発信

ア 学校ホームページの質感を充実させるとともに、更新頻度を高める。

イ 中学生、保護者、地域に対して、必要な情報をタイムリーに提供する。

※地域連携事業を積極的に継続して、本校の取り組みを発信し続ける。

4 学校組織力向上と教職員の資質向上

(1) 学校組織力向上

ア 教員としての本来の職務を遂行するためには、教員間の学び合いや支え合い、協働する力が重要である。学びの共同体としての学校の機能が十分発揮された同僚性の高い職場をめざす。

イ いじめ・虐待等の生徒指導事象や災害等の危機管理事案に対して、適切に対応できる組織となっているか、常に見直しを図る。

(2) 教職員の資質向上

ア 日常的なOJTの推進、校内研修の活性化を行う。

イ 社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員を組織的・継続的に育成する。とりわけ、教職員の人権研修を充実させ、すべての教職員がより確かな人権意識を身につける、生徒が信頼して安心できる学校づくりを推進する。

ウ 働き方改革に関する取り組み

「全校一斉休日」、「ノークラブデー」、「働き方改革に係る学校閉庁日」の推進。会議などの業務内容を合理化し、勤務時間管理及び健康管理を徹底するとともに、教職員一人ひとりの意識改革を推進する。

エ 個人情報の取扱いに対する教職員の意識を高め、適正な取扱いができるよう、個人情報の管理のためのルールの徹底を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|--|--|
| <p>① 学校教育全般 学校教育全般に係る設問「学校へ行くのが楽しい」で肯定値が68%と5p t 上昇し、保護者の肯定値は75%であった。コロナ禍のなか、工夫して行った学校行事や、居場所事業、給食、生徒支援、授業の工夫等、また、働きながら学ぶ態度の育成の成果が表れてきたと思われる。</p> <p>② 安全、安心 「人権の大切さを学ぶ機会」「地震や災害が起こった場合の行動」の肯定値がともに80%、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ」の肯定値は86%で、昨年度と比べさらに上昇した。地域の協力を得て、多角的な観点から講演・講話をいただけたことも大きく影響していると考えられる。「成績等についてプライバシーが守られている」の設問は、教員・保護者とも肯定値が100%であった。責任をもって対応している教員の姿勢を評価していただいたものとして、今後も継続したい。</p> <p>③ 生徒指導 「話をよく聞いてくれる」88%、「指導は理解できる」81%、「悩みや相談に親身に応じてくれる」79%の肯定値が得られた。個々に応じた指導、カウンセリングマインドを備えた寄り添う指導が評価につながったと考える。また、「他人に知られたくない秘密を守る」72%、「問題を見逃さずに対応」76%、「担任以外にも気軽に相談できる」71%の設問は、保護者の肯定値も高い(平均93%)。信頼を得て相談を受けとめる環境をさらに充実させたい。</p> <p>④ 授業関係 「授業はわかりやすく楽しい」74%、「教え方を工夫している先生が多い」80%の設問は、保護者の肯定値がそれぞれ73%(26%u p)、86%(23%u p)と上昇している。また、「視聴覚機器やコンピュータ等を使う機会が多い」86%の設問は、教員の肯定値が78%と49p t 上昇した。昨年度設置のプロジェクターや今年度配備の1人1台端末の活用が徐々に進んでいることに対する成果が現れている。</p> <p>⑤ 自己実現 「進路についての各学年に応じた指導」82%、「将来の進路や生き方を考える機会」88%はともに4p t 上昇。特に後者は保護者の肯定値が94%(6%u p)と高く、生徒の自己実現のために全職員が注力したことについて、適切な指導を行っているとして評価をいただいたと思う。</p> <p>⑥ 行事、特別活動 「学校行事は楽しく行えるよう工夫」75%、「部活動に積極的に取り組んでいる」61%と、昨年とほぼ同様の結果。コロナ禍にあっても、やれることにしっかり焦点を合わせて取り組むことができたと思う。</p> | <p>第1回(6/28)</p> <p>○令和3年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な計画を立てている。技能講習や資格検定の合格者数はぜひ維持してほしい。 ・学校は人づくりの組織として、環境づくりと教育を充実した計画に感銘を受けている。 ・年々遅刻総数が減少傾向にあるのは、先生方の指導の大きな成果と思う。 ・支援教育委員会設置と定期的開催の成果として、要支援生徒(家庭及び保護者等も含め)へのアプローチができています。成果が中途退学10%以内に繋がっていると評価する。 ・目標達成に向けて、全教職員が一致して取り組んでいただきたい。 <p>○令和3年度学校の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携事業は、コロナ禍で活動制限はあるが、ぜひ継続してほしい。 ・環境、防災に関する取り組み、地域と連携した取り組みに他校にない特徴があり、成果をあげている。さらに発展させ、夢と志をもつ生徒の育成に取り組んでもらいたい。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沢山の先輩を社会に輩出した実績を通して、就労の具体的なイメージを広げてほしい。 <p>第2回(11/26)</p> <p>○本校の教育活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の取り組みをそのまま続けてほしい。評価されている取り組みを、色々な人に知ってもらえると嬉しい。 ・生徒がやりがいを感じ、成果も現れ、達成感を得ていることがとてもよい。 ・生徒たちが達成感、自己肯定感を味わい、卒業後の社会で活躍する基礎を作っている。さらに達成感を味わえる取り組みに力を注いでほしい。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換の後、給食の見学と授業の参観をしていただいた。 <p>第3回(2/16)</p> <p>○令和3年度学校評価、令和4年度学校経営計画について</p> <p>次の意見をいただき、承認いただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に寄り添い、関わっていただき、生徒は充実した日々を送ることができた。感謝の気持ちでいっぱいである。 ・生徒が楽しみを感じられる学校であり、人づくりに取り組んでいる学校であると認識している。 ・学校選択が多様化するなかで、定時制高校も、その選択肢の一つであると考えている。 ・就職内定率が100%であることや、ゆめチャレなどの地域連携の取り組みは、本校のアピールポイントになる。 ・長年積み重ねてきた教育計画に則って、教育活動を進めていただけるとよいと思う。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食の喫食率を上げ、給食が継続できるように取り組んでいただきたい。 ・生徒の諸活動について、市民に向けた発表の場などがあれば、生徒のやりがいや達成感につながるのではないかと。 |

府立堺工科高等学校 定時制の課程

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標[R 2年度値] | 自己評価 |
|------------------------------|---|--|--|--|
| 1 「自立した社会人」としての資質・能力の育成 | <p>(1) 規範意識醸成 ア 社会人としての規範意識を身につけさせる。</p> <p>(2) 「わかる授業」による基礎学力の育成 ア 参加型・対話型中心の授業展開推奨 イ 各種資格・検定合格者の増加 ウ 観点別評価導入</p> <p>(3) 夢と志を持つ生徒の育成</p> | <p>(1) ア 家庭と連携して基本的な生活習慣を確立させるとともに、授業や行事で社会人として求められるルールやマナーを理解させ身につけさせていく。</p> <p>(2) ア 授業アンケートの活用、管理職による授業見学と助言、教員相互の授業見学、公開授業や研究授業の開催。 イ 各種資格や技能検定のための講習開講。 ウ 観点別評価の本格実施にむけた準備を教科毎に進め、それに沿った授業計画を構築する。</p> <p>(3) 「探究学習」や「総合学習」を通じて1年次より進路実現に向けた啓発を行い就労意欲や社会貢献意識を育む。働きながら学ばせるためにアルバイトの斡旋をする。3年生では進路部を中心に全職員で進路実現のための支援をする。</p> | <p>(1) ア 遅刻総数前年度比減。保護者向け学校教育自己診断「学校生徒指導の方針に共感できる」肯定値で前年度を上回る。[遅刻4298件][肯定値72.5%]</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断「授業に関係する設問」肯定値80%以上[77%]。 イ 各種資格・検定合格者40名以上を維持。[35名] ウ 観点別評価を取り入れたシラバスの作成。</p> <p>(3) 就職内定率100%維持[100%]、アルバイト等の就労体験率90%台維持[90%]。</p> | <p>(1) 遅刻総数2838件(R3.12現在)、自己診断肯定値75.6% 教職員と生徒が言葉を交わしICT機器を活用した日々連絡を行うなど、生徒とのつながりを深め、頻繁な家庭連絡により保護者連携に努めている。(◎)</p> <p>(2) ア 自己診断肯定値77.1% 「教え方を工夫」の項目は80.4% 少人数展開授業、複数教員での授業等で、生徒が個のレベルに応じて参加し、やりとりができる環境を整えている。(○) イ 各種資格・検定合格者56名(溶接:ガス13名、アーク13名、第2種電気工事士2名、情報処理検定27名、中国語検定1名)(◎) ウ 教員研修で情報の伝達、共有を図り、各教科での試行と検証を踏まえ、観点別評価を取り入れたシラバスを作成。(○)</p> <p>(3) 就職内定率100%、就労体験率90% ハローワークと連携してアルバイトを斡旋し、社会人として必要な生活習慣を身につけ、地元商店街の協力により実施した職業体験で、意識の向上を図った。3年生では、自己を表現する力を身につけるための支援を行った。(◎)</p> |
| 2 生徒理解の促進と自己有用感を高める取組みの強化 | <p>(1) 個々の教育的ニーズに応じた支援の充実</p> <p>(2) 生徒の自己有用感の醸成</p> | <p>(1) 支援教育委員会を定期的に開催し、支援を必要とする生徒が抱える課題の情報収集やその指導方針の共通認識を図り、進路実現につなげる。</p> <p>(2) ア 生徒会活動活性化 イ 部活動や校外美化活動などを活性化 ウ 地域企業等と連携した職業実習や「ゆめ・チャレ(小学生仕事体験)」を推進し、生徒の勤労観、コミュニケーション力を高め、進路実現を支援する。 エ 【令和2年度学校経営推進費】2年め/3年計画。「学校油田プロジェクト」完成した油化装置を投入し、更に充実した地域連携事業を展開する。【令和元年度学校経営推進費】3年め/3年計画。「職業体験による啓発プロジェクト」まとめ。</p> | <p>(1) 中退者10%以内。[6.1%] 生徒向け学校教育自己診断:「進路について各学年に応じた指導をしている」肯定値85%以上。[83%]</p> <p>(2) ア 部活動加入率60%台[45%]。 イ 近畿レベル以上の各種大会やイベントに参加。 ウ 「ゆめ・チャレ」参画企業数と小学生応募数で前年を上回る。[R2は中止、R1参画企業36社、小学生応募数1220名] エ 全国規模の発表大会に年間最低1回以上は参加し成果を披露する。</p> | <p>(1) 中退者5.1%、自己診断肯定値82.1% 「進路や生き方を考える機会」87.5% 各担任が生徒の状況を把握したうえで、支援教育委員会の定例化(年10回開催)により、情報集約と支援の方向性を共有し、進路実現を見通した指導を充実して中途退学を抑止している。(◎)</p> <p>(2) ア 部活動加入率52%。コロナ禍による活動制限で年度当初の入部が抑えられたが、体験入部の機会を追加設定し、加入を促した。加入率は昨年比で16%増。(○) イ 軟式テニス部が近畿大会出場。 生徒秋季発表大会(生活体験発表の部)で大阪府教育委員会賞を受賞。 大阪府生徒研究発表会(大阪サイエンスデイ)第2部で成果発表。(○) ウ 「ゆめ・チャレ」(小学生仕事体験)は、計画を進めていたが、コロナ禍で直前に中止を決定した。(一) エ 発表大会(全国)等で成果披露した。 ・「災害ボランティア活動」:東北被災地を訪れて「包丁砥直し」活動を行い、「防災教育」成果発表会で実践発表 ・「高校生ボランティアアワード」全国最優秀(さだまさし)賞受賞 ・「ボランティア・スピリット・アワード」ブロック賞:全国大会で発表 ・「グッドライフアワード」環境大臣賞、「気候変動アクション」環境大臣表彰を拝受し、教育長を表敬訪問した。(◎)</p> |

府立堺工科高等学校 定時制の課程

| | | | | |
|---|--|--|--|---|
| <p>3 安全、 安心して 魅力ある 開かれた 学校づくり</p> | <p>(1) 安全で安心して 学校生活を送る ための環境整備</p> <p>(2) 教育活動の積極 的な情報発信</p> | <p>(1) ア いじめのない学校づくり、SNS上での いじ めやトラブルに関する啓発を行い、見守 りと迅速な対応を組織で取り組む。また、 感染症等に係る人権問題をはじめ、様々 な人権問題の解決をめざした教育を人 権教育として総合的に推進。</p> <p>イ 様々な自然災害を想定した防災訓練を行 い、「防災」「減災」の意識を高め、「自助・ 共助・公助」の基盤を作り、危機管理体制 の強化を図る。</p> <p>(2) 中学生、保護者、地域に対して、教育情報、校 内の活動、地域と連携した活動（堺学、ゆめ・ チャレ、東北支援）等がタイムリーに伝わる よう図る。</p> | <p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診 断：「学校安全に関する設 問」肯定率 80%以上。[76%]</p> <p>イ 地域住民と合同で、防災訓 練・防災会議を 2 回以上 開催。[R 2 は開催 1 回、 コロナ禍で地域住民参加 せず]</p> <p>(2) 各活動につき紙媒体とHPで 情報発信する。学校HP内のブ ログ発信数 40 本以上。[40 本]</p> | <p>(1) ア 自己診断肯定値 81.9%。「命の大切 さや社会のルールを学ぶ機会」85.7% 社会で活動する方々の講演を充実さ せ、授業入込み・巡回・居場所事業等 を通じて生徒に近い位置で見守り、定 例打合せ会で情報集約と対応を検討 した。(◎)</p> <p>イ 地域消防指導のもと防災体験を実施。 (コロナ禍のため地域住民参加できず) 堺市危機管理室と定時制の避難、防災 訓練の在り方を協議し、実効性のある マニュアルとなるよう見直しを図っ た。(◎)</p> <p>(2) 中学校教員、中学生・保護者を招いて、学 校説明会を実施。地元中学校の研究会や 進路ガイダンスで講師を務めた。支援の 観点から資料を追加し、紙媒体で情報 を発信した。体験入学参加 27 名 [R2 13 名] 学校HP内のブログ発信 26 本 (R4.1. 現 在) 「学校油田プロジェクト」がNHKで放映 され、被災地支援の取組みは、毎日新聞、 地元紙、地元テレビで報道された。府民へ の情報発信につながった。(◎)</p> |
| <p>4 学校組織 力向上と 教職員の 資質向上</p> | <p>(1) 学校組織力向上 ア 教職員が相互に 資質を高めあう同 僚性の高い職場 イ 組織的な緊急対 応</p> <p>(2) 教職員資質向上</p> | <p>(1) ア オンライン授業やG I G Aスクールに 係る 生徒 1 人 1 台の端末を活用した教育活 動を牽引するリーダーやプロジェクト チームを創設し普及と活性化を図る。ま た、地域連携事業をはじめとする生徒が 自己肯定感を獲得できる取組みが、全職 員から次々と立案され実現できるよう な雰囲気をつくる。</p> <p>イ いじめ・虐待等の生徒指導事象や災害等 の危機管理事案に対して、全職員が迷 いなく適切に対応できる組織となってい るか、常に見直しを図る。</p> <p>(2) ア 校内研修とO J Tの充実を図るために 提案 型の学校運営参加のためのグループワ ークなどで意見提示ができる機会の設 定。</p> <p>イ 先進校視察や授業交流の促進。</p> <p>ウ 経験年数の少ない教員を経験者全員で O J Tを心掛け、相互の気づきにつなげ る。</p> <p>エ 経験年数の少ない教員を積極的に新規 事業の長に登用するなど次期の中ドル リーダーの育成を行う。</p> <p>オ 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」、 「働き方改革に係る学校閉庁日」の推進。 学校行事や会議などの業務内容を見直し 負担軽減を図る。</p> | <p>(1) ア 教員向け学校教育自己診 断「教育活動について、教 員間で日常的に話し合っ ている」肯定率 80%以上。 [71%]</p> <p>イ 生指事案は生徒指導部と 支援教育委員会の組織的 対応を徹底し懲戒件数を 10 件以内とする。[3 件] 災害、犯罪等、緊急事案が 生じた場合を常に想定 し、情報の伝達と共有方 法を周知し、オンライン 上での連絡に対する既読 返信 90%以上とする。返 信がない場合は電話連 絡。</p> <p>(2) ア 「業務スクラップ&ビル ド」をテーマにした校内研 修の実施。</p> <p>イ 公開授業週間の 2 回以上 実施。[2 回実施]</p> <p>ウ メンターを指名し経験年 数の少ない教員と協働す る機会を最低 1 回以上実 施。</p> <p>エ 経験年数の少ない教員が 前面に出る機会を作るた めにプロジェクトリーダ ーとして登用する行事を 最低 1 回以上は実施す る。</p> <p>オ 時間外勤務月 80 時間以上 の職員がでないような業 務の平準化をめざす。 [80 時間超 0 名]</p> | <p>(1) ア 自己診断肯定値 100% 1 人 1 台端末の設営・活用を図るリー ダーを中心に、経験の浅い教員が協力 して研修や実践を行い、活用事例を構 築した。地域連携事業のイベントに参 画する教員も増え、活動が充実してい る。(◎)</p> <p>イ 生徒指導事案 3 件。生起事象につ いては、支援教育委員会と協力して組織 的に指導し、継続的に見守りをしてい る。(◎)</p> <p>I C Tを活用した情報の伝達共有は、生 徒の 75%がオンラインで連絡可。電話連 絡と合わせて 100%連絡できる体制を整 えた。 教職員は、クラウドサービスを活用した 双方向の連絡を 100%とれる体制を整え、 コロナ対応等で活用している。(◎)</p> <p>(2) ア コロナ禍での行事の見直しについて、 グループでの検討や積極的な代替案 の提案があり、生徒の教育活動を維持 し自己肯定感を高める機会を保障で きた。(◎)</p> <p>イ 公開授業週間を 2 回実施し、研究授業 を 7 回実施した。先進校視察はコロナ 禍で実施できず。(◎)</p> <p>ウ 生徒事案における関係機関との連携 について、メンターと協働し、適切な 対応をとることができた。経験者の研 究授業では、研究協議で意見交換を行 い、授業力向上につながる気づきを引 き出す機会となった。(◎)</p> <p>エ 1 人 1 台端末や I C T機器の活用、生 指事案対処、修学旅行、部活動指導な どで、経験の少ない教員が主軸となり プロジェクトを進行。全体を見通して 行動する力を身につけることができ た。(◎)</p> <p>オ 時間外勤務 月 80 時間超 0 名 月 45 時間以上の職員もいない。(◎)</p> |